



丸山ふれあいの森 大山森のようちえんを訪問

NPO法人 親子支援haghag

子どもは社会の宝 地域の子どもは、地域で見守り育てよう

森をベースに「生きる力」を育む、大山森のようちえん、北垣聡園長にお話を伺ってきました。

自然と共に

この四月から、丸山ふれあいの森を中心に、丸山森林生産組合や、地元の方々の協力のもと、晴れの日も、雨でも、雪でも、外遊びを通して、「自分で感じ、考え、行動する。人を信じ、助け合い、生き抜くたくましさ。自然、大山を守り、感謝する、自分も、相手も大切に、受容する心を育む」。このことを基本理念に、毎日、森での保育が行われています。

その日は、十人の園児が三人の保育者のもと、キノコが生え、野の花が咲き、小鳥がさえずり、どんぐりの落ちる森の中で、木に登ったり、小枝の鉄砲で打ち合ったり、自由に、のびやかに、声高らかに、遊び回っていました。

遊びと体験を通して 毎週一日、食事は自分

達で作ります。おもちゃはありません。自分達で、木や枝、葉っぱや土、石、自然のもの、何でも遊び道具に変えてごっこ遊びをし、創造力を養っています。

時には、ケンカも小ぜり合いもありますが、おれ合いをつけることも、危険の回避、コミュニケーション力も養っています。

室内と比べ、外気は十度位の差はありますが、元気に動き回り、自律神経も免疫力も、耐久力、生き抜く力も育ちます。

自然の中で様々なものに興味を持ち、自らの体験から気づき、豊かな感性が育つのではないのでしょうか。

空をみて、「あーきれい!!ゾーさんみたい」あるいは「おさかなみたい」と自然に言葉を発しています。

何がきっかけで、この取り組みを始めたのでしょうか



森で遊ぶ子どもたち

今、児童虐待とか、いろいろな子どもの問題が、社会問題になっている時、本当の子育てに挑戦したかった。デンマークや智頭、広島森のようちえん「おてんとさん」等から学び、昨年週一回から二回、三回と拡げ、実践。今年四月本格オープン、今後二十人規模に増やし、送迎バスも用意したい。

お母さん達と月二回の勉強会の外に、おやじの会も立ち上げ、園行事へ

の参加、子どもとの交流、地元まめまめクラブとの交流など、父母、地域、支援者との共同の中で、お互いが育ちあっているところ。NPO法人親子支援haghag 大山森のようちえん ◆お問い合わせ先 Eメール earth53@hb.tp.jp 電話 090-180-6813694 北垣

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

編集後記

今年の夏は日本中がロンドンオリンピックで熱狂し、地元でも米子南高校出身の川中選手がアーチエリー団体女子で銅メダルを獲得するなどの大活躍で大変盛り上がりました。伯耆町においては、和牛のオリンピックと言われる全国和牛能力共進会に四名の方の所有牛の出場が決まりました。川中選手のような優秀な成績を収められることを祈念するとともに、今後の農畜産業の活性化の起爆剤になることを期待するところです。

幸本 元

【編集】

議会広報特別委員会

- 委員長 大森 英一
- 副委員長 渡部 勇
- 委員 幅田千富美
- 委員 幸本 元
- 委員 勝部 俊徳
- 委員 篠原 天



この議会だよりは再生紙を使用して印刷されています。